

公立大学法人金沢美術工芸大学
令和3年度 業務実績評価書(案)

令和4年 月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4~7
	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	⑤ 財務内容の改善に関する目標	
	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	⑦ その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(4) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある ※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている ※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある ※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

1 全体評価

年度計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）となっており、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

第2期中期目標期間の最終年度となった令和3年度も、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、令和5年度の新キャンパスへの移転を見据えた教育研究組織の再編及び学生定員の見直し等を決定したことである。

具体的には、デザイン科を視覚デザイン、製品デザイン及び環境デザインの3専攻体制からホリスティックデザイン及びインダストリアルデザインの2専攻体制に再編するとともに、大学院絵画専攻内に映像コースを新設するほか、工芸科や美術科芸術学専攻等において学生定員の見直しを行うなど、学習に対する学生の需要や研究に対する社会の要請を踏まえた改革を行うこととしており、新キャンパスへの移転を契機として、ハードとソフトの両面から質の高い教育研究環境を実現するための準備が着実に進められた。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 学位授与方針に基づき開講している各授業科目の到達目標と教育課程の編成方針の関係を示すカリキュラムマップを作成し、教育課程の体系性についての明確化を図ったこと。また、新キャンパスでの「共通工房」の設置などを念頭に、さらなる共通教育の体制整備について全学で協議を進めたこと。
- ・ コロナ禍の影響を受けて令和2年度に急遽立ち上げたKANABI-Portal等のウェブ上の仕組みを恒常的なものとして定着させ、学生に対する教育指導体制の強化を図ったこと。また、多くの公募展等が中止となる中にもあっても、学生展の開催や公募展への出品に対する補助金等の交付を継続し、学生の自主的な学習を支援したこと。
- ・ 公立大学としては全国初となる国立民族学博物館との連携協定に基づき、「平成の百工比照」コレクションのデータベースを構築するとともに、当該コレクションの成り立ちや活用方法等を説明する映像制作まで行い、全国の博物館学芸員課程でも活用できるよう、公開に向けた準備を行ったこと。

2 項目別評価

① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 47 の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が 8 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 39 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 大学の有するデザイン力を活かした広範な社会連携事業により、実社会の課題を通じた実践的な教育を行ったこと。また、その成果を学生自身が学外で発表するとともに、企画展示の内容をアートブックとしてまとめ、関係者に配布するなど、質の高い教育を実施したこと。
- ・ 学生の英語能力向上を図るため、新たに英語能力試験の受験費を補助するとともに成績優秀者に奨励金を交付する制度を設けるなど、学生の語学能力向上を図るための支援策を講じたこと。
- ・ 国際的に活躍できる卒業生を輩出するため、新たに優秀な私費外国人留学生に奨学金を給付する制度を創設したこと。
- ・ 学生相談室の利用状況の増加に伴い、開室時間を倍増して対応したほか、FD研修において合理的配慮の基本的な流れと教職員の役割・支援体制について理解を深めるなど、個々の学生の実情に応じて支援できる体制の充実を図ったこと。
- ・ 日本学生支援機構の助成金を活用した当大学独自の学生支援事業として、学内で販売している弁当類の購入時に使用可能な「学生昼食サポート券」を全学生に支給し、「食」の面から学生への支援を行ったこと。

② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が4項目、Ⅲ評価が11項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 「平成の百工比照」を活用した学術研究を世界に向けて発信するため、日本固有の工芸技術に関する記録映像の英訳に取り組み、貴重な資料となる英語版の記録映像を作成したこと。
- ・ 実技と理論が連携する体制を構築し、フィールドワーク、展覧会、シンポジウム及び記録誌の作成等を体系立てて実施するなど、質の高い研究活動を推進したこと。
- ・ 附属図書館において、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの利用を開始し、教育研究環境の充実に努めたこと。また、館内専用端末からオンラインによる迅速な資料提供を実現したこと。

③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の19の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が18項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 珠洲市との連携協定に基づき、「奥能登国際芸術祭 2020+」に大学として参加し、大きな成果を挙げたこと。具体的には、専攻を越えた学生と教員の合同アートプロジェクトチーム「スズプロ」が参加し、徹底した感染対策のもと、能登ヒバを素材に、波と手のひらをモチーフにして家全体を彫刻化する作品「いのりを漕ぐ」の制作を行い、全出展者46組中8位となる9,508人の来場者が訪れるなど、美大の力の国内外への発信に大きく寄与したこと。

④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の13の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が12項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 学部学校推薦型選抜及び大学院入試において、予定を前倒しして紙資料での出願方法を廃止し、インターネット出願システムを導入したこと。また、これにより、志願者情報の入力並びに学生募集要項の印刷及び郵送等にかかる作業を削減し、事務の効率化を図ったこと。

⑤ 財務内容の改善に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の12の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が11項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 教育的な効果を検証しつつ、積極的に外部資金の獲得に努めた結果、産学連携事業を13件、地域連携事業を12件、連携協定を1件受託し、29,332千円の受託研究収入を計上するなど、当初見込の16,000千円を大幅に上回る収入を得たこと。また、新技術を踏まえた未来志向の依頼に加え、コロナ禍における生活様式の変化にも対応した新たなデザインの研究など、企業や地方公共団体からの依頼に対して、当大学の特性を活かした提言を行ったこと。

⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
----	------------------------------

年度計画記載の4の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が3項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審し、学長を中心とする自己点検・評価実施運営会議が作成した「点検ポートフォリオ」の提出や実地調査等を経て、同センターの定めた大学評価基準に適合していると認定されたこと。

⑦ その他業務運営に関する重要目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
----	------------------------------

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパスの基本コンセプトである「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」の実現に向けて、市や設計者との協議を継続して行い、学生の視点に立った利便性の良い施設となるよう、大学の意見を仕様の細部にまで反映させたこと。
- ・ 保護者会と連携し、新たに学生の英語能力試験費を補助する制度を創設するなど、学外からの支援体制を充実させたこと。